

観光は地域経済活性化の切り札と言われて久しい。

これまでも国内各地が、それぞれに地域の魅力をアピールしながら、観光振興による経済活性化の努力を続けてきた。地域内の多様な産業が観光を軸に互いに補完し合うという可能性の故に、その推進は経済効果の広範な波及という点での強い魅力を有している。

しかし、言うまでもないことながら、観光を推進する努力の成果の発現は地域によつてさまざまであり、実際、それが全ての地域において功を奏してきたわけではない。優位に立つと思われる世界遺産に登録された資源を有する地域や街においてさえ、登録当初のブームが過ぎた後には来訪者数が低迷し、集客に苦慮している例が見られる。

一筋縄ではないかない観光振興を成功させ、それを地域の活性化につなげるためには何が必要か。繰り返し示唆されてきたことではあるが、今改めて重視すべきこと、それは「連携」ではないか。地域は、歴史や自然を背景とする独自の文化のアピールを通じて観光客の持続的な来訪を実現させる必要があるが、そこでは、食にせよ芸術にせよスポーツにせよ娯楽にせよ、観光を構成するそれら諸要素の担い手における「連携」の度合いが、成否の鍵を握る。関係者の意識的な連携がなければ、地域の個性は簡単には伝わらない。

それぞれの地域における自治体と企業と住民との間の強い

観光を支える地域経済を育み地域連携を

一般財団法人運輸政策研究機構 運輸政策研究所所長

杉山 武彦

連携との確な役割分担、そしてそれを推し進める地域のリーダーの存在が、まずは必要とされる。

さらに、地域間の連携も求められる。地域間の競争が観光客の奪い合いに終わることなく、新たな観光の誘発に至らなければならぬ。とすれば、各地域がより広域的な視点に立つて観光を促進する意識を持たなければならない。交通機関の整備などで特定地域に発展の好機が訪れた時、それを当該地域が最大限に生かすだけでなく、それを機に、広域で新たな観光を創り出すという姿勢が必要とされる。地域間競争という従来の基本原理に加え、競争と連携との賢明なバランスが求められるよう。

地域の活性化は、実は国土の均衡ある発展にとつても必要とされる。魅力的な国づくりは個性的な地域づくりから始まる。観光には、経済面のみならず、人々の心の充足や新しい知識の習得など、社会的な面における効果も期待される。移出産業、文化輸出産業としての観光は、関係者のなお一層の努力があれば、改めて地方創生の切り札となることができるし、それがいわば国家の課題でもある。

地域内の多様な主体の連携と、個性の異なる複数地域間の連携とを土台とするストーリー性のある観光の創造こそが、それぞれの地域に人を呼び、地域経済の活性化をもたらし得るといつてもよいであろう。

(すぎやま たけひこ)